

なかま

No.91



『「まさか」の一年』

団委員長 田地 司

昨年の「なかま」への寄稿では、無事な一年の皆さんへの感謝と今年の活動への期待をもって締めくくりとしたと思います。明けて今年、最初こそ初詣奉仕、スキー訓練と順調にスタートを切りましたが、まさかその後新型コロナウイルスの蔓延によりここまで活動が制限されるとは全く予想していませんでした。前半はほとんど活動ができず、実質的な再開には9月まで待たないとならない状況は誰にも予想ができなかったことかと思えます。

ご家庭、学校、職場でもそれぞれ大変な苦労を強いられたこととお察しいたします。そんな渦中でも、スカウト活動の灯は消えることなく、再開後は生き生きと活動に参加しているスカウトを見るにつけ、我々指導者も大いに元気づけられる毎日です。

過ぎ去ったことを悔やんでもしかたがないので、来年の活動について少し触れます。年明け早々には、スキー訓練を予定しています。5月には、八丈島への遠征を計画しています。8月には今年断念した夏キャンプを奥会津の金山で実施しようと考えています。他にも様々なプログラムが満載です。

今年は年の瀬を迎えるにあたって、何か調子がいつもと合わないと感じています。原因はやはりスカウト活動の制約であり、特に夏キャンプが実施できなかったことは、自分の中のスカウト時計が狂ってしまったのだと感じている年末です。

さあ、来年こそは思い切りスカウト活動を楽しみましょう。そのためには、一人一人がコロナに感染することなく、また活動でクラスターを発生させることなく細心の注意と感染予防策を徹底することは言うまでもありません。今年一年の皆さんへの協力を改めて感謝するとともに、来年は今年を取り戻すくらいの活動をしたいと切に祈念しています。

『コロナ禍の活動』

育成会会長 下山田 弘

育成会会員の皆様におかれましては、それぞれの立場、役割に応じて日頃の13団への御尽力に感謝申し上げます。

私共はコロナ禍の活動という、いまだ経験した事の無い状況に置かれています。隊長始めリーダーの方々には活動を進めるにあたり、大変ご苦勞されていると思

います。現象面をセンセーショナルに報道するマスメディアに惑わされる事無く、「正しく恐れる」事を心がけて行きたいと思います。ただでさえ活動的でない現代の青少年は、コロナの影響で更に、「巣ごもり状態」になっています。こういう時こそボーイスカウトのような、野外活動を行う青少年団体が真価を発揮する時です。日本連盟の活動指針を順守し、無理をせず、出来る範囲の活動という事にはなりますが、地道に活動を行って行きたいと思います。まだ終息が見えませんが、始めがあれば必ず終わりがあります。スカウト達の笑顔、元気に活動する姿を絶やす事なく、それまで皆で力を合わせ、この難局を乗り切っていきましょう。

『ローバー隊便り』

RS 隊隊長 木村 孔紀

「#おうちスカウティング」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。これは日連が推奨しているコロナ禍における新たなスカウト活動の形です。これを知ったときは、なんだか慣れ親しんだ「スカウティング」という言葉が全く知らないもののようで、スカウト活動のあり方が変わっていくのを感じました。

ご存知の通り、今年はコロナの影響により多くの活動が中止・延期となりました。一年の集大成である夏キャンプやローバーの一大イベント100キロハイクなどがその筆頭です。今年の2月、各隊が揃ってBP 祭をやったのが最後にやった大きな行事でしょうか。とても懐かしく感じてしまいます。

そんなコロナの2020年ですが、悪いことばかりではありませんでした。まず新しい仲間が増えたのは大きな変化です。上進スカウトに加え、盛岡から米澤くんが来てくれるなど去年以上に賑やかなローバー隊となったのは純粋に嬉しいかぎりです。またオンライン会議を通じて、海外留学中の中山くん、山田くんともやり取りできるのは今のローバー隊に良い刺激を与えてくれています。特に今後の海外遠征についての話し合いでは彼らの意見がとても参考になっています。何より、こんなに先々の活動についてまでゆっくり話し合う機会もあまりなかったのが、この機会にスカウトがどんな活動に興味があるのか知ることができたのが一番の収穫でしょう。

スカウト活動の基本は「計画・準備・実行・反省」になります。これは変わりゆくスカウト活動の中であっても変わらないものだと思います。長い計画・準備期間を経て、やっと実行できる段階に近づきつつあります。これまでの自粛期間を十分に活かし、これからの活動がより良いものになるよう私自身も努

めてまいりたいと思います。変わりゆくスカウト活動の中ではございますが、
変わらぬご理解ご協力をお願い申し上げます。

『バンチャー隊便り ～スカウト活動の現状～』

VS 隊隊長 本田 裕輔

スカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。コロナ禍で VS 隊
のスカウト活動も未曾有の危機を迎えています。今年に入ってから Web 上での
会議を月 1 回程度開催できたのみで、実際の活動は数えるほどにすぎません。
これは単に自粛によりスカウト活動が制限されたことが理由ではないと感じて
います。コロナの影響で学校へ通えなかったことや、友達に会えない時間が長
かったため、学校での勉強や部活動、友達との実コミュニケーションを大切に
思い、時間を割いているのではないのでしょうか？

高校生年代がこのような状況下においてスカウト活動に目を向けることの難
しさを痛感しており、反面、しょうがないのかなと思っています。

ただ、このような状況でも比較的出席率がよい Web 上での隊運営会議を定期
的に開催し、スカウトのニーズを応援していきたいと思います。

実活動については、希望者がいれば参加人数が少なくとも、どんどん開催し
ていきます。

これからも有効で楽しい活動を続けていきたいと思っています。ご協力をお願い
いたします。



<ソーシャルディスタンスに配慮したハイキングの実証（渋沢周辺）>
参加者は怡土君、廣瀬君、ゲストとして後にRS隊に入隊した米澤君と瀧本副長



<ソーシャルディスタンスに配慮した登山の実証（塔ノ岳）>
参加者は宮本君、滝浦君、本田君と瀧本副長

『BS 隊だより』

BS 隊隊長 宮本 隆太郎

今年度、BS 隊は4名が卒業（VS へ2名上進、2名は残念ながら退団）、CS から3名のスカウトが上進してきました。スカウト17名、昨年よりは若干少なくなりましたが引き続き13団、そして町田地区のBS 隊のなかでも大所帯での賑やかな活動がスタートしました。

リーダーは永山さんが VS へ異動、新たに CS から高田さんに参画いただき、増田さん、竹原さん、鎌田さん、成澤さん、宮澤さん、宮本の7名体制です。総務の元木さん、鷺尾さん、高田さんはじめ保護者の皆さま、VS、RS の各隊にも支援いただきながら BS 隊の活動を盛り上げていきたいと考えております。

昨年度は新型コロナ感染拡大に伴う活動自粛のため、他隊同様に2月～6月の活動を行うことができず、7月から日帰りでの活動を再開しました。9月にキャンプを再開するまでは、とにかく皆で楽しく美味しいもの食べよう！ということでバーベキューを主軸？にした活動が続きました。

しかしながら、やはり BS 隊の活動はキャンプをしなければ始まりません。9月からコロナ感染予防対策のため個人テントを利用してキャンプを再開しました。果たしてスカウトたち、特に CS から上進してきた子たちなどは一人で寝ることができるだろうか、というリーダーや保護者の一抹の不安をよそに、みんな個人テントを満喫している様子です。また BS 隊はキャンプの荷物が多く運搬・設営・撤営が毎回一苦労なのですが、個人テントを導入したことでフットワークが軽くなり、これからの活動の幅も広がりそうです。従来 of A 型テントを利用したスタイルでは考えられないことですが、5月キャンプでは RS、VS 隊と合同で伊豆諸島でのキャンプなども計画しています。

話は変わりますが、最近あった印象的なエピソードをひとつご紹介します。11月に行われた CS 秋のハイキングに小6のスカウトたちがデンコーチとして参加しました。元々一泊舎営の予定がコロナの影響で日帰りのハイキングに変更となってしまう、一泊舎営を楽しみにしていたデンコーチたちも残念だったと思いますが、一番がっかりしているのはカブスカウトたちだから自分たちが活動を盛り上げよう！という意気込みでゲームをたくさん覚えてきてくれました。そしてハイキングが始まってから、K 君がスカウト弁当を忘れてしまったことに気づいたのです。途方に暮れる K 君…でも困った時は仲間どうし助け合おうということで、同じ組についていた二人のデンコーチが自らおにぎりを分けてくれました。仲間を思いやる様子を目の当たりにして隊長としてとても嬉しく、誇らしい気持ちになりました。

さて、ボーイスカウト活動は野外活動を通じた社会教育プログラムで、BS 隊

の活動ではスキルを習得するための『基礎訓練』はもちろん大事だけど、厳しくてつらい経験をするだけでなく（これもこれで良い経験ですが）、もっと楽しんで活動していいんじゃないだろうか。なんてことをコロナ禍で活動停止を余儀なくされるなか、考えたりしました。勉強だって仕事だって、楽しく取り組めることが一番良いに決まっています。スカウトたちがもっとキャンプやボーイスカウト活動が楽しい！と思えるような工夫をして、『永遠のアウトドア大好き少年』になってもらおう、と思いを新たにしている今日この頃です。

『カブ隊だより』

CS 隊隊長 甲田 秀行

カブ隊長甲田です。3月よりの活動自粛の期間が明けましたが、未だに泊を伴う活動には自粛の要請がかかっています。秋の一泊舎営が中止となったことは残念ではありますが、泊がなくとも自然の中でスカウト達のがびのびと活動できるプログラムを企画、実施していきたいと思います。

今年の目標は1年間を通して100キロ以上ハイクをすることとしています。

自然の中で遊び、体力をつけ楽しいカブ隊にしていきたいと思います。



<さあ、隊集会の始まりだ！>



<エンピツ削り 誰が一番上手に削れるかな?>



<ありがとう! ウォーウォーウォー!>

『BVS 隊便り』

BVS 隊隊長 原 敏文

ボーイスカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。
ビーバースカウトの楽しい活動は「せいかつ」「けんこう」「しぜん」「しゃかい」「ひょうげん」の五本柱で、木の葉しょうシールをたくさん集めて10枚になると「こえだしょう（小枝章）」がもらえ、子どもたちが日々たくましくなるような内容です。いつも元気いっぱいの子供達に圧倒されるばかりですが、指導者の初心に戻り新鮮な気持ちで子供達と子供目線で向き会い「子供の心を持った大人」を意識して取り組んでいきます。

今年度も BVS 隊の活動は、「しぜんのなかでみんなとなかよくあそぼう」の環境で活動していきたいと思えます。スカウトはみんなと仲良く元気に遊ぶ、セレモニーはビシッと話を良く聞く、安全優先に楽しい活動をする、そのためにはお兄さんスカウトの支援協力を是非お願いします。

今年の活度を振り返ると、コロナウィルス感染の為、活動がかなり制限された状況ですが、1月のスキー訓練では自然の雪に触れ雪遊びをしたりスキーが上手に滑れるようになりました。7月の清川リバーランドではバーベキュー大会&サバイバル川登りを経験し自然を十分に満喫し、スカウトの日では公園・道路の空き缶ゴミ拾いをみんなで協力して楽しく行いました。またナイトハイクでは6kmの真っ暗な夜道をみんなで歩き夜空の観測体験をしました。これからも子ども達の成長を楽しみに、スカウトが安全安心に活動できるように見守っています。

スカウト及び13団発展のために、皆様のご理解とご協力をお願いします。



『第1歩 ～とあるスカウトの気まぐれ紀行文もどき～』

RS 隊 山田 航平

紀行文と言われて書き方に悩む。そして何から説明していけば良いかすらわからない。よって、紀行文という枠に捉われない文をこれから不定期に連載していこうと思う。これは私が大学生活を送っているマレーシアでの事柄を周りとどく文にしたものだ。

私がマレーシアで大学生活を送り早三ヶ月が過ぎようとしている。私はある程度こちらでの生活に慣れたが、英語の学習進捗具合は別物だ。毎日四苦八苦している。私は文章を書くこと苦手である。よって、色々話すことに多少の躊躇いはあるが、今回は初回ということでマレーシアのお国柄・生活を語ってみたいと思う。

マレーシア、それは東南アジアに位置し、タイ、インドネシア、ブルネイと陸上の国境線で接しており、シンガポール、フィリピンと海を隔てて近接している。マレー半島南部およびボルネオ島北部も加えマレーシアという国を形成している。首都はクアラルンプールという場所にある。多様人種国家でもあり、多くの人種が手を取りあって暮らしている平和な国だ。気候は年がら年中暑く、日本と違い、季節というものが存在しない。存在するのは雨季と乾季の二つだけである。今現在1月のマレーシアは誰の気紛れかわからないが突如として日本というゲリラ豪雨がなんの前触れもなくやってくる。毎日午後になると毎度やってくる。雨だけでなく雷も。まるで、私の生活に対して叱りつける母のような怒声に似た凄まじい音の雷もおまけでついてくる。そのような天気が続いている。

そして次はお金の話になる。私にかかわらず皆お金は大好きだし、買い物も好きだろう。その点でマレーシアは日本と比べて断然、物価が安く、財布に優しい。大体日本円にして300円ほどあれば余裕で一日食べていけるのである。昨年私が日本に一時帰国した際、私はあることができなくなっていた。できないというよりかは体がその行動自体を受け付けないのである。それほどのインパクトの正体は、マレーシアでの生活が板に付くと日本のコンビニなどでジュースやお菓子を買えなくなるという現象である。例えば日本で購入できる150mlのペットボトルのコーラを買うと大体150円ぐらいになる。一方、マレーシアで買うと大体日本円で、130円ぐらいで1000mlのコーラを購入することが可能なのである。そんなこんなで今や私の金銭感覚は狂いに狂っているのである。金銭に関わりがある食事や服に関しては今後また触れていこうと思う。なぜ今触れないのかは話が長くなりすぎて今回だけで収まる気がしないからだ。よって、それらについては次回話そうと思う。

最後に歴史について簡易的に説明しようと思う。高校の世界史・日本史を齧ればある程度は知っているであろうが、マレーシアは長くの間欧米諸国の植民地として扱われてきた。今でもその痕跡が残り多くの人々によって愛されている。その歴史は今もなおマレーシアの経済を動かす支柱として受け継がれている。歴史的建造物や物は人によって感じ方が違うし、文では言い表すことも難しい。

今回は色々端的にマレーシアについて語った。次回は最後に少し齧った歴史的建造物について写真も交えて語っていきたいと思う。

『コロナウィルス とボーイスカウト』

BS 隊 フクロウ班 元木 信太

2020新型コロナウイルスが日本に来て、日本は緊急事態宣言が出されボーイスカウトの活動ができなくなりました。そんな中僕はフクロウ班の一番上になります。少し緊張など心配もありますが、頑張ってフクロウ班を引っ張っていきたいです。僕はハイキングとロープワークが苦手なので、この自粛期間を利用してロープワークを覚えたいです。こんなに大変な時だからこそ、頑張りたいです。

『小野路のキャンプ』

BS 隊 フクロウ班 成澤 悠希

ぼくは、9月21日から22日までキャンプをしに行きました。

久しぶりのキャンプだったので少し緊張しました。最初は計画を決めました。四人しかいなかったのととても大変でした。けれどスーパーで食料を買うときは、量が少なくとても楽でした。バスで移動するときは食料をザックに入れないといけないのでとても嫌でした。小野路キャンプ場についてリーダーがまだ来ていなかったのが、がっかりしました。

一人用のテントを建てるので、一人で建てるのがとても大変でした。テントを建てた後は食テンを建てました。建てた後は、少し休んでから夕食を作りました。夕食はホイコーローを食べました。とても美味しかったです。夕食を食べた後は片付けをして歯みがきをしてから着替えて寝ました。

朝は5時ぐらいに起きて朝食を作りました。朝食はスクランブルエッグとパンを食べました。食べた後は片付けをして食テンなどを片付けました。片付けて

から帰りの準備をしてバスに乗って帰りました。

久しぶりのキャンプだったのでとても楽しかったです。またやりたいです。

『楽しいけど、楽しい』

BS隊 バイソン班 初級 宮澤 陸人

9月の班キャンプは、自分にとっては初めての班キャンプでした。最初は多少戸惑いながらも、先輩方の指示をもらいながら、仕事をこなすことができました。その後は、何もかもスピーディーに動けました。

私が「うまく出来たな」と思ったことは2つです。一つ目は買い出しです。時間が一番かかりそうと見込んでいた買い出しが思った以上に早くできました。これは、みんなが、持ってくるものを分担し、ひとつのカゴに素早く集められたのが良かったと思いました。

二つ目はテントを建てる時です。一人用テントは、買ってから2、3回は練習していたので、素早く行動できた上に、他のスカウトにも多少教えられたため時間の節約にもなったと考えています。

逆に「よくなかったな」と思ったこと2つあります。一つ目は、バスから降りるとき料金を出そうとするとなかなか取り出せない人が多く、他のお客に迷惑になってしまっていたからです。なのでこれからは、降りるときのスピードも意識していきたいと思います。

二つ目は帰るときのナベやフライパンの洗い方です。私たちの班は洗い方が甘く、黒いところの汚れがすごく残っていました。そのため無駄な時間を使ってしまいました。なので次からは、一つ一つの食器などをていねいに洗っていくことを心がけたいと思います。



<BS隊 個人テントを設営した様子>

『初めてのキャンプ』

BS隊 バyson班 初級 鷲尾 咲人

ぼくは10月3日と4日に、初めてのボーイのキャンプへ行きました。そこで思ったことが三つあります。

一つ目は初めての経験です。ぼくはテントを張るのが初めてなのでとても不安でした。でも先ぱいたちが教えてくれたり、マネしたりしてなんとかできました。とってもうれしかったです。

二つ目は食事についてです。ぼくは、初めて飯ごうでご飯を炊きました。宮澤先ぱいが炊いたご飯はとてもおいしかったです。夜に焼いたバーベキューもとてもおいしかったです。そして朝は、スクランブルエッグを食べました。ぼくはスクランブルエッグを食べるのが初めてでした。とてもおいしかったです。次のキャンプではもっとおいしいものを食べたいです。

三つ目は楽しかったことについてです。特に先ぱいたちがとても面白かったです。他にも夜のナイトセッションや、マシュマロを食べたりとても楽しかったです。またキャンプに行きたいです。

『初めてのボーイ隊キャンプ』

BS隊 バyson班 初級 和田 達明

10月3日～4日にボーイ隊初めてとなるキャンプを行いました。キャンプ場についてまずしたことは休けいです。自分の半分より重いくらいの荷物を持って歩いたのでヘトヘトでした。

むずかしかったことが3つあります。一つ目は、テントの設営です。色々大変でしたが、特にむずかしかったのは金属のぼうを曲げてさすことです。力がけっこう必要で、先ぱいに手伝ってもらいながら何とか出来ました。次からは自分だけで組み立てたいです。

二つ目は、食テンを立てることです。ちゃんとぼうを90°にして引っ張ったのですがたるんでしまい、苦戦しました。原因は、ペグを地面のゆるいところにさしてしまったからだと思います。

三つ目が、立ちかまどを作ることです。結ぶことに手こずってしまい、時間までに出来なかったからです。この三つのむずかしかったことを、もっと早く出来るようになりたいです。

一方で、良かったこともありました。お米は吸水させておいたのでおいしく仕上がりましたし、火も早く起こせたので良かったと思います。つかれた後の

ご飯は、とってもおいしかったです。

悲しい実話をお話しします。トイレの中にくつ下を落としてしまったので、す・・・ビニールぶくろに入れて、その口を固くしばり、はさみで切らないと開けられないようにしました。

ねるときに、少し後悔したことがあります。坂の下に頭を置いてしまったので少し苦しかったです。次は頭を上にしてねたところです。

ねてから数分後、びっくりした事が二つあります。一つ目は、ねこ同士がケンカをしていたことです。ねこ達のせいで、あまりねむれませんでした。二つ目は、雨が降ってきたことです。

ねこ達は相変わらずケンカをしていて、カゼを引かないか少し心配になりました。おきると、3時半でびっくりしました。さらに目をつぶって開けると一しゅんで30分がたってびっくりしました。

テントをしまつて、帰る準備をしました。帰りは下り坂だったので、行きと比べれば楽でした。バスに乗つて、おくれないように早くお金をとつて入れました。家に着いたときはカーペットにねそべつて休けいしました。

お風呂に入つて、ふとんに入りました。楽しかったな。そう思いながら目をつぶりました。

『スカウティング小話 その8「東京オリンピック」』

育成会会長 下山田 弘

今年開催するはずだった東京オリンピックは、来年に延期されたが、前回の東京オリンピックは、私が高校3年、56年前だが、ボーイスカウトとして大会の奉仕を行った。所属していた東京連盟の旧山手地区内に国立競技場があったので、オリンピック組織委員会から日本連盟に奉仕の依頼があり、大会期間中の参加国の国旗掲揚、降納を担当した。「開会式と閉会式は自衛隊が担当」私の所属していた団は前半一週間の掲揚を担当したので、その間自宅から国立競技場に行き、午後から通学した。収納庫から国旗を取り出し、両手で捧げ持つて、掲揚台までは駆け足で移動した。掲揚方法も全て決まつていて、足を置く位置も決まっていた。リーダー達は参加国の国旗を上下間違えずに掲揚する事に気を使つていた。東京連盟作成のオリンピック用ネッカチーフ、組織委員会からの感謝状、岡本太郎デザインの記念メダルはまだ家に保管してある。来年のオリンピックにも、ボーイスカウトは活躍してもらいたいと思う。

入隊おめでとう！

2020年9月27日 ひなた村カリヨンホールにて、
2021年度の入隊上進式が全団揃って開催されました。



<ビーバー隊の ちかい と やくそく を
元気に宣言できました>



<東 真之介くん と 藤木 亮成くん
入団おめでとう！>



<ローバー隊にも 米澤 陽良くんが入団しました>

菊スカウト誕生！



2020年9月22日 町田中央公民館で菊章認証式があり、
2名の菊スカウトが誕生しました。おめでとう！



久保田 燈くん

西村 輝大くん